



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

かわら版 13号

第7ステージは9月4日、本隊が関西線四日市駅から桑名まで、最高気温38度の猛暑の予報に観光隊は朝日駅から。今回の目玉は何と言っても旧東海道「七里の渡し」の再現。潮の加減で伊勢大橋より上流の「上之輪棧橋」から出発。東名阪、1号線、名四、湾岸道路の鉄橋をくぐり長良川、木曾川を横断する。海から見る長島温泉、トリトン大橋に見とれ、リバークルーズ(株)の鈴木さんとガイドの松田さんの軽妙なお話に酔いしれる(船は揺れないので船酔いはない)



2時間半で宮の渡しに着く。客室は冷暖房とトイレ完備、2階席は360度の展望完備。海面にボラが飛ぶ景色もあり「乗れなかった人はホントお気の毒」の声が相次ぐ感動のクルーズであった。定期運



航はないのでこの機会を逃すと個人では体験できない。

遊覧船トロワリヴェール(フランス語で三川)号を所有して運行しているのは「くわなリバークルーズ(株)」という町おこしの会社。1口5万円の出資者が市長以下大勢とか。通常は七里の渡し跡から出航するが今回は潮の加減で1.5キロほど離れた上流の船着き場であった。タクシーで送って下さる。利益を目標にしていないとはいえ気前がいい会社である。

なお、航路も今回は沿岸に近い最短距離だったので宮まで約2.5時間。引き潮で沿岸から離ればもっと時間がかかる。7里は昔の話で今は10里に近いそうだ。風速12メートル以上の場合には欠航である。

